

銀漢亭日録



伊藤伊那男

1月24日(金)

▼店、「雛句会」八人。発行所「金星句会」あと四人。星野高士、中西夕紀さん(「都市」主宰)、「星野立子賞」選考会のもと、寄つて下さる。

25日(土)

▼「銀漢俳句会年次総会」。湯島の白梅五分咲き。宴会で馬鹿殿のかつらを被つてはしゃいでしまう。最後「銀漢亭」に三十二人集まり二次会。

26日(日)

▼杏子、桃子、義妹来て家の整理。業者呼び、着物、絵画などの処分。リフォーム業者も。夜、三月号の選句。酒飲まず。

27日(月)

▼発行所、二月号の発送。店、昔の仕事仲間・神村君。取引先だった旧長銀のKさん、旧興銀のKさんと。坪井さん旧東海銀行の部下と四人。

28日(火)

▼「田」の池田のりをさん、明日から渡仏と。堀切君へ二月号三冊、今週出た「角川季寄せ」を託す。閑散。

30日(木)

▼近所の守屋さん、饒別とてセーラーの筆記具下さる。杏子に車で来てもらいパニラを鈴木でる緒さん宅へ。二ヶ月ほど預かっていただくことになる。店、カルチャーセンターで私の句を知ったという岩佐さん母子がインターネットで「知命なほ」と入手したとて、会いに来てくれる。今日も閑散。太田うさぎさん誕生日。シャンパンで祝う。今月は、私の知人、凌雲夫人の後輩と二十代、三十代の女性が入会。「北軽井沢句会」から二人、「雛句会」から一人と入会あり、幸先のよいスタート。

31日(金)

▼旧暦では今日が元旦。今週はホント客少なし。オリッ

2月3日(月)

クス時代、女性総合職第一号の原山美香さん夫君と。二人とも不動産鑑定士。ああ、あの頃は彼女らを引き連れて旨い店を巡り歩いたものだ。

▼「かさ、ぎ俳句勉強会」皆川盤水句について、あと十一人。政三さんの輪島土産の濁酒佳し。帰路、地元のイタリアンレストランに寄る。マスターに転居の挨拶。二人でついつい二時くらいまでワインを傾けるといふことに。

4日(火)

▼「火の会」十人。京都の友人より到来の鮎鮎、湯豆腐を供す。配達の間問屋が一月は売り上げ最低記録で冷えきっていると。景気は一体？

5日(水)

▼「読む会」四人。「きさらぎ句会」あと八人。「宙句会」あと八人。村上敏和氏久々。志肇さん手作りの塩辛持参、秀逸。てる緒さん、ばら寿司持参、秀逸。

7日(金)

▼何としても平成俳壇四月号の選を引つ越し前にと、仕上げて発送する。「大倉句会」あと十二人。伊那北高一年後輩の宮下君、上京したとて、友人と三人で。以前、贈呈した『知命なほ』に泣いたと。叔父さんに貸したらやはり泣いたのであげてしまった、一冊欲しいと。俳句をやらない人がそう言ってくれるのは、何とも俳句冥利！明日は大雪情報。

8日(土)

▼七時、武田編集長より電話あり。雪、ますます酷くなる模様とて「銀漢本部句会」中止の触れを出すことになる。運営委員会も中止。たまさかの休日に選句したり、エッセイを書いたり、寝たり。

9日(日)

▼朝、雪掻き。二十分やるがヘトヘト。都知事選投票。午後、杏子来て最後の荷物整理。十七時、引つ越し屋さん二名、二トントラック。結局乗り切れず、宮澤の車来る。それでも積み残し。新居の部屋に桃子が

10日(月)

シモンズのベッド用意してくれる。安眠。
▼仕事休み。学校、幼稚園、プレ幼稚園と出発時間の違う子供達の朝の風景を見る。部屋の片付け。「銀漢」三月号の校正。一歩も家を出ず。桃子、孫とハンバーグ他夕食の支度。夜遅く、宮澤、本門寺撮影などから戻り、引つ越しの祝杯。

11日(火)

▼建国記念日。家族は寒川神社神主の写真納品を兼ねて参拝に。留守番、校正その他。午後、宮澤に車出して貰い積み残しの荷物段ボール十個ほど取りに行く。夜、ステーキ、大根サラダ、茹海老、牡蠣など。

12日(水)

▼十時まで、下の子の面倒みて、お手伝いさんのレジイとバトンタッチ。成城でスーパーマーケットの、八百屋など捜してみる。十一時半、「咸亨酒店」の梶の葉句会の、大溝さんの銀漢賞佳作受賞を祝う昼食会に招かれる。後、発行所へ選句に。店、超閑散。谷岡、大野田さんが「井月忌の集い」の俳句大会運営についての打ち合わせ。二十二時に閉める。転居一日目から早々に帰るのは癪なので馴染みの店に寄り、板さん、大将と話。新宿からの小田急線、意外に空いていることに驚く。座つたら読売ランド前まで乗り越し。ああ……。

13日(木)

▼昨夜、セコムのセット忘れる。次に間違えるときつと娘に怒られる！隣駅、祖母ヶ谷大蔵に降りて、店舗など調べる。高井戸で使っていた同じ「オオゼキ」発見。発行所、最終校正。てる緒さん、パニラ連れて見せにきてくれる。細やかに世話をしてもらって私と暮らしているよりも幸せそうである。店、そこそこ。最後、洋酔、酔馬、展枝、淳子さんと「大金星」に寄る。

14日(金)

▼またまた雪。今日は「俳壇」パーティーでその後「青垣」御一行が祝賀会という段取りながら、さて。幹事の広渡敬雄さんと連絡取り合う。家族は今日から軽井沢へ。買い物して店に出るが、雪激しく、休むこととする。近所で飲んで二十時には帰宅。桃子より、軽井沢へは行き着けず、熊谷に泊る。

15日(土)

▼雪、二十七センチと。羽生金メダル。選句、ゆつくり風呂など。木田千女さん、鳥居真里子さんから電話。御徒町「吉池」にて買い物。理容店。十八時半、湯島「鮎いづ」にて「天為」同人・橋本有史さんの選句の祝い。二十名ほど。夫人は「慶應茶道会」の後輩。乾杯の音頭をとる。橋本さん取り寄せの松葉蟹、かわはぎの薄造り、肝付き、筒焼、刺身は魴鰯、金目、のどくろ、はた、縞鯨など見事！「ちゃんちゃんこ着せて還暦らしくなる」終わって八人ほどでカラオケ。零時半帰宅。

16日(日)

▼十時半より、高幡不動尊にて「春耕新年俳句大会」。川澄大僧正御回復にて安堵。盤水先生の墓参り。宴席、乾杯の音頭とる。朝から胃が重く葉など飲んでいたがどうやら回復。清人さん二日酔いで酒に手を付けず。昨日一緒であった。そうだ、私も二日酔いであったのか……。島田ヤスさんのしもつかれ旨し！子息・島田文男さん作のお茶碗をいただく。あと参道の蕎麦店にて恒例の二次会。朝妻力、空木、静男、紘子など。帰宅すると三家族集まってパーティーの最中。疲れが溜まっついて参加せず、そのまま就寝。二十時頃か。